

【ポスター発表】

医療ソーシャルワーカーの退院援助におけるストレスに関する一考察

○ 県立広島大学保健福祉保健福祉学専攻 渡邊佳代子 (009241)

住居広士(県立広島大学・002209), 棚田裕二(県立広島大学大学院生命システム科学専攻・009290)

キーワード: 医療ソーシャルワーカー、退院援助、ストレス

1. 研究目的

医療ソーシャルワーカー(以下、MSW とする)が行う退院援助の現状を把握し、退院援助を行う上での MSW のストレスについて調査し課題を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

1) 調査期間と調査方法

2017年1月10日から同年2月末までの調査期間とし、A県にある病院71か所を対象に、無記名としたアンケート用紙を郵送により配布。後日各病院より郵送により回収する方法で実施した。調査対象はA県にある病院に勤務する MSW とした。71か所の病院の MSW を対象にアンケート調査を行い、その結果、39か所の病院から回答があり、合計86人の回答のうち全項目に回答したアンケートを有効とし、72人を分析対象とした。

3) 調査内容及び分析方法

アンケート(質問紙)の内容は MSW の基本情報(年齢、性別、取得資格、経験月数、所属部署、直属の上司の種類)、及び退院援助における「かかわり度」、「やりがい度」、「負担度」をそれぞれ5件法で評価した。

分析にあたり、統計ソフト PASW Statistics18.0 を使い、基本属性等と退院援助における「かかわり度」、「やりがい度」、「負担度」およびストレス項目のクロス集計を行い、その退院援助の実態を整理した。なお、ストレス項目は厚生労働省が作成した職業性ストレス簡易調査票を一部改変し、退院援助業務を行う上でのストレスチェックを行った。

3. 倫理的配慮

調査協力依頼文において研究の趣旨の説明及びプライバシーの保護・秘密保持の遵守を明記した。また、回答に関しては対象者の自由意志で諾否が決められるよう配慮し、承諾をした場合に限り調査票の返送を依頼した。なお、収集されたアンケートについて、個人情報すべて ID 番号データの統計量化の処理により、その保護を行った。

4. 研究結果

1) 対象者の基本属性

・対象者の年齢状況

20歳代 25人(34.7%)、30歳代 26人(36.1%)、40歳代 15人(20.8%)、50歳代 2人(2.8%)、60歳代 4人(5.6%)であった。

・性別状況

女性 56 人 (77.8%)、男性 16 人 (22.2%) で、約 3/4 は女性であった。

- 取得資格(複数回答)

社会福祉士 62 人(86.1%)、精神保健福祉士 39 人(54.2%)、介護福祉士 3 人(4.2%)、介護支援専門員 22 人(30.6%)であった。

- 経験月数

98.1±74.7 ヶ月であった。

- 所属部署

MSW のみで独立した部署 11 人(15.3%)、地域連携室など退院援助にかかわる部署 54 人(75.0%)、事務部 4 人(5.6%)、その他医局等 3 人(4.2%)であった。

- 直属の上司の職種 医師 9 人(12.5%)、看護師 32 人(44.4%)、MSW21 人(29.2%)、事務職 9 人(12.5%)、その他 1 人(1.4%)であった。

2)退院援助の実態

退院援助の月件数(延べ件数)を尋ねた結果、10 件未満 24 人(33.3%)、10 件以上 20 件未満 20 人(27.8%)、20 件以上 30 件未満 9 人(12.5%)、40 件以上 50 件未満 5(6.9%)、50 件以上 14 人(19.4%)であった。MSW1 人が 50 件以上の退院援助を行っている人もいた。

また、退院援助における「かかわり度」及び「やりがい度」、「負担度」をそれぞれ“1.全くない”、“2.多少ある”、“3.まあまあある”、“4.かなりある”、“5.非常にある”の 5 件法で尋ねた。その結果、「かかわり度」は“4.かなりある”22 人(30.6%)、“5.非常にある”25 人(34.7%)であった。「やりがい度」は“4.かなりある”24 人(33.3%)、“5.非常にある”7 人(9.7%)であった。「負担度」は“4.かなりある”19 人(30.6%)、“5.非常にある”3 人(21.4%)であった。

さらに、退院援助に対する負担度が高いと回答した人のうち、ストレス項目において“日常たくさんの退院援助業務を行わなければならない”、“注意と集中力をする必要がある”、“大変神経をよく使う業務だ”、“自分のペースで退院援助ができない”と回答した人が 3 割超えた結果であった。

その他、「退院援助を続けていくうえで、ストレスや負担に思っていることはどのようなことでしょうか」への自由記載では、回答が 55 件あり“他職種との連携取れないこと”、“患者・家族と医療スタッフとの板挟みになること”、“早期退院を求められ、時間かけて MSW の退院援助ができていないこと”などの回答が多くあった。

5. 考察

MSW は退院援助において、やりがいを感じている反面、注意力や集中力が必要、気を遣う等ストレスを抱えながら業務を行っている傾向がある。その背景には他職種との連携の問題や、病院や他職種から求められる早期退院調整の役割と、本来行うべき MSW の退院援助のあり方に違いがあり、そのことに課題を感じながら日々の業務を行っていることが要因であると考えられる。